

3月27日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A201 ○Isabelle Vea ¹ ・Shiotsuki Takahiro ² ・Joraku Akiya ² ・Tanaka Toshiharu ¹ ・Minakuchi Chieka ¹ (Nagoya University ¹ ・NIAS ²) Role of the Juvenile Hormone in the establishment of sexual dimorphism in the Japanese mealybug	B201 ○和田 篤史・中出 彩・小野 肇・西田 律夫 (京大院・農) エノキに含まれるオオムラサキの産卵刺激物質	C201 ○山下 雄大 ¹ ・小嶋 健 ² ・佐久間 正幸 ¹ (京大院・農・昆虫生理 ¹ ・住友化学 ²) 湿度の時間的変化に対するケナガコナダニの転回応答から走湿性の機構を探る	D201 ○田中 幸一・馬場 友希・楠本 良延 (農環研) 水田におけるクモ類の種組成・個体数の地理的違い：北海道から沖縄までの調査結果	E201 栗原 潤 (長野 南信農試) 長野県のナシ中晩生種におけるナシヒメシンクイの発生要因の検討	F201 ○清沢 靖仁 ¹ ・野口 忠久 ² (長野木曾農改 ¹ ・長野農試 ²) 長野県木曾地域の水田におけるアカヒメヘリカメムシの発生生態と防除
9:15	A202 ○Minakuchi Chieka ¹ ・Shiotsuki Takahiro ² ・Joraku Akiya ² ・Tanaka Toshiharu ¹ ・Vea Isabelle ¹ (Nagoya University ¹ ・NIAS ²) Expression analysis of the doublesex gene in the Japanese mealybug	B202 ○山口 夕紀・小野 肇・矢代 敏久・西田 律夫 (京大院・農) アゲハチョウ科食性進化の起源を探る：ウスバシロチョウの産卵刺激物質	C202 ○日室 千尋 ¹ ・宮竹 貴久 ² (岡大院・環境・進化、学振PD ¹ ・岡大院・環境・進化 ²) 雄の体サイズは射精物(雌の再交尾抑制物質)の効果に影響するの？	D202 ○Dewi ViraKusuma ¹ ・Yasuda Hironori ² (岩手大院・連合農学 ¹ ・山形大・農 ²) 水田においてイネの生育と水生生物の群集構造にタニシが及ぼす影響は陸生節足動物の群集構造も変化させる	E202 石栗 陽一 (青森産技セリんご研) 青森県のリンゴ園におけるナシヒメシンクイの発生と各種殺虫剤の効果	F202 ○櫻井 民人 ¹ ・関矢 博幸 ² ・菅原 幸哉 ² ・中山 壮一 ² (中央農研 ¹ ・東北農研 ²) 斑点米被害軽減のための低温焼成粃殻灰の施用条件
9:30	A203 ○松本 圭司・志賀 向子 (大阪市大・院理) チャバネアオカメムシの幼若ホルモン合成抑制物質の探索	B203 ○芝 祥太郎・今野 裕介・長澤 淳彦・堀 雅敏 (東北大院農) 紅茶に含まれるタバコシバンムシの産卵刺激物質の特定	C203 奥 圭子 (農研機構・中央農研) アカスジカスミカメの雄由来物は雌の性フェロモン放出に影響するか？	D203 ○Trisnawati Dina ¹ ・Yasuda Hironori ² (岩手大院・連合農学 ¹ ・山形大・農 ²) 継続年数の異なる有機水田の地上部の群集構造における生物由来栄養分の間接効果：パターンとその機構	E203 木村 勇司 (青森農林総研) ジアミド系殺虫剤低感受性コナガに対する各種薬剤の育苗期かん注処理の効果	F203 ○西島 裕恵・青山 政義 (富山農総技セ農研) カスミカメムシ2種の発生量と斑点米率に及ぼす水田内雑草量の影響
9:45	A204 ○金児 雄・比留間 潔 (弘前大・農学生命) Verson's glandにおける体節特異的なホルモン応答遺伝子の網羅的解析	B204 ○鎌田 悠司・荒木田 尚弘・小坂 祐司・長澤 淳彦・堀 雅敏 (東北大院・農) タバコシバンムシが成育に不適なコーヒーに卵を産むのはなぜか	C204 ○香取 郁夫 ¹ ・土原 和子 ² ・Daniel R. Papa ³ (近畿大農 ¹ ・森林総研 ² ・Arizona Univ. ³) ある種のチョウの幼虫がもつ頭部突起の適応的意義：アオジャコウアゲハにおける「第2の触角仮説」の検証II	D204 ○笠井 敦 ¹ ・林 岳彦 ¹ ・早坂 大亮 ² ・五箇 公一 ¹ (国立環境研 ¹ ・近畿大農学部 ²) ネオニコチノイド及びフィプロニルの複数年施用が水田節足動物に及ぼす影響	E204 ○濱本 卓・武田 千秋・三谷 滋・森田 雅之・吉田 潔充 (石原産業株式会社) 新規殺虫剤シクラニリプロールに関する研究(第1報)-果樹・茶分野を中心に-	F204 ○鈴木 理・佐藤 智 (山形大・農) 農法が畦畔と水田の地表性クモ類の発生量に及ぼす影響

3月27日(金) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G201 ○高木 正見・中平 賢吾・岩瀬 俊一郎・谷 聡一郎・津田 みどり(九大院・農) 天敵農薬ヨーロッパトピチピアメバチ剤の利用法	H201 ○和田 節 ¹ ・Shrivastava S.K. ² ・Bhowmick A.K. ² (九州沖縄農研 ¹ ・JNKVV ²) インド・デカン高原のダイズ生産と病害虫	I201 ○大庭 伸也・高田 尚・中島 かりん・村上 陵(長崎大・教育・生物) 大型ゲンゴロウ類における生活史と行動形質の比較	J201 ○砥綿 知美・真田 幸代・松村 正哉(九沖農研) トピロウンカの吸汁・産卵特性と圃場における増殖過程のイネ品種間差異:新規需要米品種を中心に	K201 ○下田 武志 ¹ ・日本 典秀 ¹ ・香川 理威 ² ・伊藤 勇弥 ² ・森光太郎 ² ・大朝 真喜子 ² ・今井 修 ² ・吉田 潔充 ² ・中島 哲男 ³ ・平岡 正 ⁴ (中央農研 ¹ ・石原産業中央研 ² ・石原バイオサイエンス ³ ・大協技研 ⁴) 天敵カブリダニ類の新規増殖資材「いつでも天敵TM」の開発と利用	L201 ○伊藤 克彦 ¹ ・天竺 桂 弘子 ¹ ・横山 岳 ¹ ・門野 敬子 ² (農工大院農 ¹ ・生物研 ²) カイコ濃核病ウイルス2型抵抗性/感受性遺伝子の中腸における発現領域とウイルス感染性との関係	9:00
G202 ○喜友名 朝次・安田 慶次・玉城 雅範(沖森研セ) デイゴヒメコバチ <i>Quadrastichus erythrina</i> の天敵デイゴカタビロコバチ <i>Eurytoma erythrinae</i> の導入までの経緯と取組	H202 ○Kurniawan Andreas・Satoru Sato(山形大・農) Occurrence of arthropods in conventional and organic Dadachamame fields	I202 ○喜久村 智子・貴島 圭介(沖縄農研センター) クログハナアザミウマの発育に及ぼす温度の影響	J202 ○松村 正哉 ¹ ・Khin Khin Marlar Myint ² ・吉田 和弘 ¹ ・真田 幸代 ¹ ・安井 秀 ² ・小林 徹也 ³ (九沖農研 ¹ ・九大 ² ・生物研 ³) 東アジア・インドシナ地域におけるトピロウンカの抵抗性判別イネ品種に対する加害性の長期的変動	K202 ○香川 理威 ¹ ・鈴木 敦利 ² ・伊藤 勇弥 ¹ ・大朝 真喜子 ¹ ・森 光太郎 ¹ ・今井 修 ¹ ・吉田 潔充 ¹ ・中島 哲男 ³ ・平岡 正 ⁴ (石原産業中央研 ¹ ・豊橋温室園芸農協 ² ・石原バイオサイエンス ³ ・大協技研工業 ⁴) 広食性天敵カブリダニ類の新規増殖維持装置「いつでも天敵TM」を利用した施設オオバのアザミウマ類防除	L202 ○仲井 まどか ¹ ・ロバート ハリソン ² ・内田 春明 ¹ ・国見 裕久 ¹ (農工大・農 ¹ ・USDA-ARS ²) 顆粒病ウイルス包埋体形態異常変異株の遺伝子解析	9:15
G203 ○安田 慶次・喜友名 朝次・與那嶺 大気・玉城 雅範(沖森林セ) デイゴヒメコバチの天敵デイゴカタビロコバチの飼育方法	H203 ○松山 隆志 ¹ ・佐藤 恒啓 ¹ ・照屋 清仁 ¹ ・山岸 正明 ¹ ・佐渡山 安常 ¹ ・原口 大 ² ・金城 邦夫 ² ・鶴井 香織 ³ (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ² ・琉球産経 ³) 沖縄県津堅島におけるイモゾウムシの根絶防除状況	I203 ○河合 章・武田 光能(野菜茶研) ミナミキイロアザミウマの低温耐性 — 侵入後35年を経過して —	J203 ○田村 泰盛 ¹ ・服部 誠 ¹ ・吉岡 博文 ² ・吉岡 美樹 ² ・高橋 章 ¹ ・呉 健忠 ¹ ・千徳 直樹 ¹ ・安井 秀 ³ (生物研 ¹ ・名古屋大 ² ・九州大 ³) インド型イネ品種ADR52の保有するトピロウンカ抵抗性遺伝子 <i>BPH26</i> の単離	K203 ○柳田 裕紹 ¹ ・桐明 紗織 ¹ ・下田 武志 ² ・日本 典秀 ² ・森光太郎 ³ ・中島 哲男 ⁴ ・平岡 正 ⁵ (福岡農林試 ¹ ・中央農研 ² ・石原産業中央研 ³ ・石原バイオサイエンス ⁴ ・大協技研工業 ⁵) イチゴにおける天敵増殖資材「バンカーシート [®] 」を利用したミヤコカブリダニの個体数維持効果の検討	L203 ○三橋 渡・志村 幸子・上野 千尋・宮本 和久・和田 早苗(生物研) 昆虫ボックスウイルススピンドルの昆虫消化管内での態様	9:30
G204 ○光永 貴之・長坂 幸吉・後藤 千枝・日本 典秀・守屋 成一(農研機構中央農研) 二種の作物上でのモモアカアブラムシを寄主とした際のナゲルクロアブラバチの生態的パラメータの違いについて	H204 ○照屋 清仁 ¹ ・大石 毅 ¹ ・熊野 了州 ^{2,3} ・鶴井 香織 ^{2,3} (沖縄防技セ ¹ ・琉球産経 ² ・琉大農 ³) イモゾウムシ大量増殖における歩留りと性成熟の関係	I204 ○湯川 淳一 ¹ ・一ノ瀬 陽 ² ・キム ワンギュ ³ ・上地 奈美 ⁴ ・行徳 直久 ⁵ ・藤井 智久 ⁶ (九大 ¹ ・九大・農・昆虫 ² ・九大院・生資環・昆虫 ³ ・果樹研 ⁴ ・久留米市 ⁵ ・九大院・比文 ⁶) ダイズサヤタマバエを含むハリオタマバエ類(ハエ目:タマバエ科)の発育零点と高温による発育遅延	J204 ○服部 誠 ¹ ・松本 由記子 ¹ ・田村 泰盛 ¹ ・平江 雅宏 ² (農業生物研 ¹ ・中央農研 ²) 抵抗性品種加害性バリオタイプにおけるツマグロヨコバイ唾液タンパク質の遺伝的変異	K204 ○関根 崇行 ¹ ・佐藤 美和 ¹ ・森 光太郎 ² ・中島 哲男 ³ (宮城農園研 ¹ ・石原産業中央研究所 ² ・石原バイオサイエンス ³) バンカーシート [®] を利用したイチゴ親株からのミヤコカブリダニ放飼によるハダニ類防除	L204 高務 淳(森林総研) 昆虫ボックスウイルスの感染経路について	9:45

3月27日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:00	A205 粥川 琢巳・○篠田 徹郎 (生物研) カイコの2種 <i>Methoprene tolerant</i> パラログの機能解析	B205 ○羅 智心・本田 洋 (筑波大・生命環境) モモノゴマダラノメイガの産卵行動における植物香気の機能	C205 ○深谷 緑 ^{1,2} ・高梨 琢磨 ³ (日大・生物資源 ¹ ・東大院・農 ² ・森林総研 ³) マツノマダラカミキリの視覚・振動情報の統合利用—振動によって見え始める?	D205 ○上田 茂生・本林 隆 (農工大院・農) 水田に生息する水生昆虫群集に対するネオニコチノイド系箱処理剤3種の影響	E205 ○福田 健 ¹ ・重水 剛 ¹ ・林川 修二 ² (鹿児島農総セ大隔 ¹ ・鹿児島農総セ ²) ダイコンのキスジノミハムシに対するシアントラニリプロール剤の効果的な処理深度の検討	F205 ○平江 雅宏・柴 卓也・大藤 泰雄・奥田 充・早野 由里子 (中央農研) イネ縞葉枯ウイルス保毒がヒメトビウンカの発育と産卵に及ぼす影響
10:15	A206 ○粥川 琢巳 ¹ ・長峯 啓佑 ² ・石川 幸男 ² ・西田 義憲 ³ ・篠田 徹郎 ¹ (生物研 ¹ ・東大院・農 ² ・北大院・理 ³) 幼若ホルモンによるエクダイソン誘導性蛹化決定因子 <i>Broad-complex</i> の抑制分子機構	B206 ○大村 尚 ¹ ・四塚 俊介 ² (広島大・院・生物圏 ¹ ・広島大・生物生産 ²) モンキチョウ <i>Colias erate poliographus</i> の雄特異的なエピクチクラ成分	C206 ○坂本 洋典 ¹ ・小池 卓二 ² ・深谷 緑 ^{3,4} ・高梨 琢磨 ⁵ (玉川大 ¹ ・電通大 ² ・東大 ³ ・日大 ⁴ ・森林総研 ⁵) マツノマダラカミキリの定着を振動により阻害する	D206 吉崎 雄宏 ¹ ・高倉 耕一 ¹ ・西田 佐知子 ² ・○西田 隆義 ¹ (滋賀県立大環境科学 ¹ ・名大博物館 ²) ジェネラリスト送粉昆虫が駆動する近縁雑草の駆逐は特定の順序に従うか?	E206 ○諏訪 明之・足立 康・中野 元文・藤岡 伸祐・坂田 和之 (日本農業株式会社) プロロフェジン (アブロード [®]) のネダニ類に対する防除効果	F206 ○石崎 摩美・山口 弘道・草佳那子 (中央農研) 飼料イネと紫イネ品種でのイチモンジセセリ幼虫の発生
10:30	A207 ○内堀 美和・大門 高明・粥川 琢巳・瀬筒 秀樹・篠田 徹郎 (生物研) <i>PTH</i> ノックアウトカイコにおけるエクジステロイド生合成能	B207 ○釘宮 聡一 ¹ ・下田 武志 ² ・安部 洋 ³ ((独)農環研 ¹ ・中央農研 ² ・理研BRC ³) 花香成分を用いたコナガサムライコマユバチ誘引の試み	C207 ○向井 裕美 ¹ ・西野 浩史 ² ・高梨 琢磨 ¹ (森林総研・森林昆虫 ¹ ・北大・電子化学研究所 ²) 求愛シグナルを脚で感知する:キンカメムシ類における振動受容機構の解明	D207 ○キム ワンギユウ ¹ ・湯川 淳一 ² (九大院・農・昆虫 ¹ ・九大 ²) タマバエの体内に残存する植物DNAを利用した寄主植物の同定	E207 ○樋口 聡志・古家 忠 (熊本農研セ) 熊本県に発生するタバコナジラミバリオタイプQのピリダベン水和剤に対する感受性低下	F207 ○城田 安幸 ^{1,2} ・城田 創 ² ・佐藤 悠平 ² (弘前大学農学生命科学 ¹ ・医果同源りんご機能研 ²) 無農薬りんご園の害虫管理 (11) 4年間合成農薬・合成肥料を使用せず、有機認証を取得したりんご園に於けるマイマイガ幼虫の発生と天敵による防除
10:45	A208 ○海江田 祐也・増田 亮太・西田 律夫・小野 肇 (京大院・農) エクダイソン分泌時期操作による蛹化に必要な糊タンパク発現制御機構の解析	B208 ○金山 祥子 ¹ ・新垣 則雄 ² ・若村 定男 ¹ (京都学園大学 ¹ ・沖縄農研宮古島 ²) リュウキュウツヤハナムグリのオスを誘引するボウランのにおい物質の探索	C208 渡辺 雅夫 (山口大・院・理工学) ヨトウガにおける超音波による逃避行動誘発の神経回路	D208 吉村 真由美 (森林総合研究所 関西支所) 溪流性底生動物群集と生息流域の地質構造との関係	E208 ○上室 剛・東垂水 昭子 (鹿児島農総セ茶業部) チャノホソガに対する各種薬剤に加工した展着剤および脂肪酸グリセリドの効果	F208 舟山 健 (秋田果樹試) リンゴ園における機械除草が土着カブリダニの発生に及ぼす影響

3月27日(金) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G205 ○長坂 幸吉・光永 貴之・日本 典秀・守屋 成一・後藤 千枝 (農研機構・中央農研) アブラムシ類の二次寄生蜂の発生に及ぼす防虫ネットとアブラバチ種の影響	H205 ○中野 亮平 ¹ ・土井 誠 ¹ ・石川 隆輔 ¹ ・天野 喜也 ² (静岡農林技研 ¹ ・静岡中遠農林 ²) 静岡県の施設トマトにおけるタバコカスミカメを利用したタバコナジラミ防除体系の検討	I205 ○清水 健・河名利幸・大谷 徹 (千葉県農林総研セ) 果樹カメムシ類発生数増減の裏で何が起きているか～親が食べ過ぎ子が困る～	J205 ○武田 光能・河合 章・北村 登史雄・山下 謙一郎・若生 忠幸 (農研機構野菜茶研) ネギハモグリバエ卵に対する抵抗性ネギ品種の抗生作用	K205 ○渡邊 丈夫 ¹ ・上原 啓介 ² ・武部 新平 ³ ・相澤 美里 ¹ ・伊藤 勇弥 ⁴ ・中島 哲男 ⁵ ・平岡 正 ⁶ (香川農試 ¹ ・香川小豆事務所普及 ² ・JA香川小豆 ³ ・石原産業(株)中央研 ⁴ ・石原バイオサイエンス(株) ⁵ ・大協技研工業(株) ⁶) バンカーシートを用いたミヤコカブリダニの育苗期放飼による促成栽培イチゴのハダニ防除	L205 佐藤 大樹 (森林総研) トビケラ寄生性の昆虫疫病菌類について	10:00
G206 光永 貴之・○後藤 千枝・日本 典秀・守屋 成一・長坂 幸吉 (農研機構中央農研) チュリップヒゲナガアブラムシとトウモロコシアブラムシへの寄生におけるナケルクロアブラバチの生態的パラメータ	H206 ○日本 典秀 ¹ ・長坂 幸吉 ¹ ・後藤 千枝 ¹ ・安部 順一郎 ² ・綱島 健司 ³ ・飛川 光治 ³ ・西 優輔 ³ ・小原 慎司 ⁴ ・手塚 俊行 ⁴ (農研機構・中央農研 ¹ ・農研機構・近中四農研 ² ・岡山農研 ³ ・(株)アグリ総研 ⁴) 施設キュウリにおけるタバコカスミカメによるネギアザミウマ防除効果	I206 ○本田 知大・小倉 信夫・糸山 享 (明治大院・農) ツヤアオカメムシの短日で誘起される休眠は高温で安定する	J206 ○阿部 誠・野下 浩二・田母神 繁 (秋田県立大・生物資源) アレチウリは葉だけではなく茎や根も食害を受けにくいのか?	K206 中石 一英 (高知農技セ) 施設キュウリにおけるタバコカスミカメとスワルスキーカブリダニを利用したアザミウマ類防除	L206 柳沼 勝彦 (農研機構果樹研リンゴ) 6種の昆虫病原糸状菌の宿主種について	10:15
G207 ○小林 誠・西村 浩志・伊村 務 (栃木農試) アブラムシ寄生蜂ナケルクロアブラバチ: <i>Ephedrus nacheri</i> 雌成虫に対する各種薬剤の散布後影響日数	H207 ○高橋 明彦・竹内 博昭 (中央農研北陸研究セ) 2種トラップにおけるアカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメの誘殺数の比較	I207 檜垣 守男 (農研機構果樹研・盛岡) モモチョッキリの生活史調節に関わる2つの休眠	J207 長澤 淳彦 (東北大院・農) ウコンノメイガの寄主転換は産卵選択によるものか?	K207 ○奥野 昌平・里見 純 (アриста) スワルスキーカブリダニに対する簡便な薬剤影響試験方法の検討	L207 神谷 克巳 (岐阜農技セン) <i>Beauveria bassiana</i> 分離菌株の低温での増殖特性と防除利用の可能性	10:30
G208 ○太田 泉 ¹ ・柿元 一樹 ² ・大藪 正史 ³ ・井上 栄明 ² ・武田 光能 ¹ (農研機構野茶研 ¹ ・鹿児島県農総セ ² ・鹿児島県農政部 ³) ギフアブラバチ用バンカー法の改良	H208 ○岩田 大介・石本 万寿広 (新潟農総研作物研) アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメの水田間分布様式	I208 ○田中 一裕 ¹ ・佐々木 悠 ² (宮城学院女子大・一般教育 ¹ ・宮城学院女子大・食品栄養 ²) 化性の移行地帯(仙台市)におけるマダラスズ的生活史	J208 ○安部 洋 ¹ ・富高 保弘 ² ・瀬尾 茂美 ³ ・下田 武志 ² ・澤田 有司 ⁴ ・平井 優美 ⁴ ・立石 剣 ³ ・釘宮 聡一 ⁵ ・櫻井 民人 ² ・津田 新哉 ² ・小林 正智 ¹ (理研BRC ¹ ・中央農研 ² ・生物研 ³ ・理研CSRS ⁴ ・農環研 ⁵) 植物防衛による害虫行動の制御	K208 ○窪田 聖一・池内 温 (愛媛農水研) 夏秋トマトのオンシツコナジラミに対する薬剤の感受性と多発要因の解析	L208 ○豊里 哲也 ¹ ・鶴井 香織 ^{1,2,3} ・熊野了州 ^{1,2,3} ・照屋 清仁 ² ・大石 毅 ² (琉球産経(株) ¹ ・沖縄防技セ ² ・琉大農 ³) 原虫に感染したイモゾウムシ体内のグリコーゲン量は減少する	10:45

3月27日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	A209 ○荻原 麻理・引場 樹里・齋藤 一樹・片岡 宏誌(東大・新領域)カイク雌蛹におけるエクジソン代謝と卵発育制御	B209 ○新垣 則雄 ¹ ・安田 慶次 ² ・金山 祥子 ³ ・實野 早紀子 ³ ・若村 定男 ³ (沖縄農研 ¹ ・沖縄森資研 ² ・京都学園大 ³)ボウランによるリュウキュウツヤハナムグリ雄の送粉のための誘引	C209 ○柳川 綾 ¹ ・樫村 京一郎 ² ・三谷 友彦 ¹ ・篠原 直毅 ¹ ・畑俊充 ¹ ・吉村 剛 ¹ (京大生存圏 ¹ ・中部大 ²)マイクロ波暴露下でシロアリの歩行行動に見られた影響	D209 ○岡部 貴美子・長谷川 元洋(森林総研)土壌性ダニの多様性保全におけるマイクロハビタットの評価	E209 ○内田 一秀・村上 芳照・綿打 享子・功刀 幸博(山梨果試)ブドウのチャノキイロアザミウマに対する簡易な薬剤感受性検定法の検討	F209 ○大谷 徹・中井 善太・武田 藍・金子 洋平(千葉農林総研)千葉県の栽培管理の異なるナシ園におけるハダニ類およびチャノキイロアザミウマの土着天敵の発生消長
11:15	A210 ○伊賀 正年 ¹ ・中村 立樹 ¹ ・齋藤 一樹 ¹ ・木内 信 ² ・石神 健 ³ ・藤本 善徳 ⁴ ・片岡 宏誌 ¹ (東大院・新領域 ¹ ・生物研・昆虫科学 ² ・東大院・農 ³ ・東工大院・理工 ⁴)変異系統のカイクに含まれるステロイド類の分析によるNm-g機能の探索	B210 ○藤井 達也 ¹ ・中 秀司 ² ・内田 一秀 ³ ・那須 義次 ⁴ ・柴尾 学 ⁵ ・瀧田 克典 ⁶ ・佐々木 正剛 ⁷ ・佐藤 道浩 ⁸ ・高部 真典 ⁹ ・松澤 清二郎 ¹⁰ ・堀川 拓未 ¹⁰ ・大隅 専一 ¹¹ ・小松 美千代 ¹¹ ・金子 政夫 ¹² ・軸丸 祥大 ¹³ ・新井 朋徳 ¹⁴ ・平松 高明 ¹ ・金生 剛 ¹ (信越化学 ¹ ・鳥取大・農 ² ・山梨果樹試 ³ ・大阪防除所 ⁴ ・大阪環農水研 ⁵ ・福島県庁 ⁶ ・福島農総セ ⁷ ・大分県北部振興局 ⁸ ・山形農総研セ ⁹ ・新潟農総研 ¹⁰ ・秋田果樹試 ¹¹ ・長野果樹試 ¹² ・広島総研 ¹³ ・果樹研 ¹⁴)SEルアー クビアカスカシバの誘引性改良検討	C210 ○佐伯 真二郎 ¹ ・田中 誠三 ³ ・竹田 真木生 ² (神戸大農学研究科 生物研 ¹ ・神戸大農学研究科 ² ・農生研 ³)トノサマバッタの食草選択、長期給餌における水供給の影響と広食性の意義	D210 ○工藤 寛生 ¹ ・村田 浩平 ² ・玉川 佳樹 ³ ・岩田 眞木郎 ⁴ (東海大・院 ¹ ・東海大・農 ² ・東海大・院 ³ ・東海大・総合教育セ ⁴)阿蘇地域における食糞性コガネムシの多様性と希少種の保全	E210 ○島谷 真幸・砂川 喜信・眞境名 元次・新垣 則雄(沖縄農研)宮古島のサトウキビ栽培におけるメイチュウ類の粒剤防除	F210 ○三代 浩二・土田 聡・中野 亮・外山 晶敏・岸本 英成・井原 史雄(農研機構果樹研)ナシ園の植生管理による土着天敵類の定着促進 3. 園地および周辺植生における発生動態
11:30	A211 ○齊藤 惇基 ¹ ・木村 亮太 ¹ ・海江田 祐也 ¹ ・西田 律夫 ¹ ・小野 肇 ¹ ・伊賀 正年 ² ・片岡 宏誌 ² (京大・農 ¹ ・東大院・新領域 ²)脱皮ホルモン生合成および応答に関与する3-オキシステロイドの機能解析	B211 ○安居 拓恵・辻井 直・田中 誠二(独)農業生物資源研)ゴマダラカミキリの生活史制御要因およびメス接触性フェロモンのオス定着効果	C211 ○矢野 修一・大槻 初音(京大院・農・生態情報)分散可能な状況下でのハダニとカブリダニの攻防(1)	D211 ○村田 浩平 ¹ ・田中 幸一 ² (東海大・農 ¹ ・農環研 ²)阿蘇地域における野焼きがオオブタクサおよびオオブタクサ上の節足動物相とブタクサハムシに及ぼす影響	E211 西村 浩志(栃木農試)ニラのネダニにおける温水処理防除	F211 ○岸本 英成・三代 浩二・土田 聡・中野 亮・外山 晶敏・柳沼 勝彦・井原 史雄(農研機構果樹研)果樹園周辺植生におけるダニヒメテントウ類の発生消長

3月27日(金) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
<p>G209 ○妙楽 崇¹・太田 泉²・杖田 浩二¹ (岐阜農技セ¹・野菜茶研²) とうがらし類やピーマンで 사용되는殺虫剤のギファブラバチに対する影響期間</p>	<p>H209 奥谷 恭代 (鳥取農試) 鳥取県におけるアカスジカスミカメの出穂前フェロモントラップ誘殺数を用いた斑点米被害の予測</p>	<p>I209 ○五味 正志・中崎 秀樹・岩橋 諒一 (県立広島大・生命環境) フタホシココオロギのオス幼虫に見られる発育特性</p>	<p>J209 富澤 真^{2,1}・中村 有希¹・野田 博明¹ (生物研¹・東大新領域²) ツマグロヨコバヤのバクテリオームで高発現している遺伝子: RNAi 処理後の網羅的遺伝子発現解析</p>	<p>K209 ○貴島 圭介・大城 篤・大石 毅・喜久村 智子 (沖縄農研センター) 沖縄の野外における TYLCV と媒介虫タバコナジラミの発生消長</p>	<p>L209 内村 良美¹・小林 淳¹・村上 理都子²・中島 信彦² (山口大農¹・生物研²) トビイロウンカ胚子由来培養細胞の作出と特性解析</p>	<p>11:00</p>
<p>G210 竹本 裕之 (静岡大・グリーン研) 天敵寄生蜂ギファブラバチにおける未経験の寄主ハビタツ植物由来の探索キューに対する応答性の獲得</p>	<p>H210 加進 丈二 (宮城古川農試) カスミカメムシ類のフェロモントラップを利用した斑点米被害予測</p>	<p>I210 ○新谷 喜紀・寺尾 美里・廣瀬 謙 (南九州大昆虫生態) マメハンミョウ成虫の寄主嗜好性と異なる寄主植物におけるパフォーマンス</p>	<p>J210 ○渡部 賢司¹・行弘 文子¹・深津 武馬²・野田 博明¹ (生物研¹・産総研²) ツマグロヨコバヤ共生リケッチアの雄性伝播</p>	<p>K210 ○北村 登史・雄・飯田 博之・河野 勝行・武田 光能 (農研機構 野菜茶業研究所) 各種インセクタリアープランツ候補植物による各種土着天敵の増強効果</p>	<p>L210 ○田中 博光・勾坂 晶 (生物研) カイコの Imd 経路の活性化に関わるペプチドグリカン認識タンパク質</p>	<p>11:15</p>
<p>G211 ○柿元 一樹¹・井上 栄明¹・太田 泉²・武田 光能² (鹿児島農総セ¹・農研機構・野茶研²) ギファブラバチ放飼後に寄主ジャガイモヒゲナガアブラムシが消失するのはなぜか?</p>	<p>H211 ○田淵 研¹・市田 忠夫²・大友 令史³・加進 丈二⁴・高城 拓未⁵・新山 徳光⁶・高橋 良知⁷・永峯 淳一⁸・草野 憲二⁹・榊原 充隆¹ (農研機構 東北農研¹・青森農林総研²・岩手農研³・宮城古川農試⁴・宮城防除所⁵・秋田防除所⁶・秋田農試⁷・山形農総研セ⁸・福島農総セ⁹) 東北地域における斑点米カメムシ類: 2003-2013年の発生動向と被害実態</p>	<p>I211 ○西村 知良¹・沼田 英治² (日大・生物資源¹・京大・院理²) ヒメマルカツオブシムシ成虫の卵への投資にみられる地理的変異</p>	<p>J211 ○大林 翼¹・Mergaert Peter²・二橋 亮³・鎌形 洋一^{1,3}・深津 武馬³・菊池 義智^{1,3} (北大・農¹・CNRS²・産総研・生物プロセス³) ホソヘリカメムシ盲嚢特異的“システム質”の機能解析</p>	<p>K211 ○深澤 直人・高橋 竜太 (JT 葉タバコ研) リン化水素のタバコシバンムシ殺虫効果に対するガス濃度と処理時間の影響</p>	<p>L211 ○太田 史・草野 希枝・井戸 篤史・三浦 智恵美・三浦 猛 (愛媛大南水研) 天蚕由来免疫賦活化多糖: Silkrose の同定及び機能解析</p>	<p>11:30</p>

3月27日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:45	A212 ○長峯 啓佑・星崎 杉彦・石川 幸男 (東大院・農) キボシカミキリの5齢幼虫における蛹化運命決定の時間的プログラム	B212 ○柿崎 昌志 (道総研道南農試 (現中央農試)) テンサイカスミカメの性フェロモンの主成分比率と誘引性の関係	C212 ○大槻 初音・矢野 修一 (京大院・農・生態情報) 分散可能な状況下でのハダニとカブリダニの攻防 (2)	D212 ○玉川 佳樹 ¹ ・村田 浩平 ² ・工藤 寛生 ³ (東海大・院 ¹ ・東海大・農 ² ・東海大・院 ³) 阿蘇地域の放牧地における土壌動物および地上徘徊性節足動物相	E212 高部 真典 (山形農総研七園試) クビアカスカシバの土壌に対する物理的防除法の検討 (第2報)	F212 ○片山 晴喜 ¹ ・増井 伸一 ¹ ・金子 修治 ² (静岡果樹研セン ¹ ・静岡伊豆農研セン ²) 草生栽培と炭酸カルシウム微粉末剤を使用したカンキツ園における天敵類の発生

3月27日(金) 午後 一般講演

15:00	A213 ○朝野 維起・相澤 研介・相垣 敏郎 (首都大・院理工・生命) 外骨格形成のしくみと昆虫の進化	B213 ○田端 純 ¹ ・一木 良子 ^{2,4} ・大野 豪 ³ (農環研 ¹ ・国際農研 ² ・沖縄農研セ石垣 ³ ・学振RPD ⁴) バナナコナカイガラムシの性フェロモン	C213 ○鶴井 香織 ^{1,2,3} ・熊野 了州 ^{1,2,3} ・原口 大 ⁴ ・立田 晴記 ² ・豊里 哲也 ^{1,3} ・松山 隆志 ¹ (沖縄防技セ ¹ ・琉大農 ² ・琉球産経 ³ ・沖縄農研セ ⁴) 天敵は「いる」だけで被食者に影響を与えるかーイリムサーキバラコマユバチの存在がイモゾウムシ次世代数に与える効果ー	D213 山村 光司 (農環研) ベイズ推定法による推定値の捏造ーその回避法についてー	E213 ○斎藤 佳乃・渋谷 和樹・佐藤 光成・堀 正敏 (東北大学院農) 青色光殺虫効果の種による違い	F213 ○園田 昌司・デヴィッド ワリ (岡山大・植物研) カブリダニによるハダニ管理に有用な下草の選抜と効果の確認ー岡山県倉敷市のモモ圃場における試みー
15:15	A214 ○早川 由夏・糸山 享 (明治大院農・応用昆虫) ツヤアオカメムシにおけるビテロジェニン遺伝子のクローニング	B214 ○上原 拓也 ^{1,2} ・中 秀司 ³ ・松山 茂 ¹ ・安藤 哲 ⁴ ・本田 洋 ¹ (筑波大・生命環境 ¹ ・学振DC1 ² ・鳥取大・農学部 ³ ・農工大・BASE ⁴) ホシヒメホウジャクの性フェロモンの同定と種特異性	C214 ○高須賀 圭三 ¹ ・安井 知己 ² ・石神 徹 ² ・中田 兼介 ³ ・池田 健一 ¹ ・松本 吏樹郎 ⁴ ・前藤 薫 ¹ (神戸大・農 ¹ ・神戸大・工 ² ・京女大 ³ ・大阪自然史博 ⁴) クモの寄生蜂による寄主クモの造網行動操作の起源と機能ーニールセンクモヒメバチを例に	D214 ○藤家 梓 ¹ ・寺嶋 芳江 ² (元千葉農総研 ¹ ・琉球大 ²) ヒメシュモクバエ (ハエ目:シュモクバエ科) の分布と行動	E214 ○石川 隆輔・土井 誠・中野 亮平 (静岡農林技研) 赤色光照射がメロンで発生する微小害虫の行動や産卵に及ぼす影響	F214 ○市川 大輔・光畑 雅宏・里見 純 (アリストライサイエンス株) ミヤコカブリダニのバック製剤を利用した露地ナシでのハダニ類防除
15:30	A215 ○村田 康允・刑部 正博 (京大院・農・生態情報) ナミハダニの光回復におけるCPDの修復とフォトリアーゼ遺伝子発現	B215 小巻 建太郎・○中牟田 潔 (千葉大・院・園芸) 日本産イラクサギンウワバ <i>Trichoplusia ni</i> の性フェロモン	C215 ○渡 康彦 ¹ ・宮崎 洋祐 ² ・後藤 慎介 ³ ・田中 一裕 ⁴ (芦屋大・臨床教育 ¹ ・芦屋大・院教 ² ・大阪市大・院理 ³ ・宮城学院女子大・一般教育 ⁴) 自然条件下でのキョロショウジョウバエの羽化時刻ー温度周期の重要性	D215 星崎 杉彦 (東大院 農学生命科学) カブトムシの事例から、体サイズの性的二型度を表す指標を再考する	E215 ○柴尾 学・城塚 可奈子・田中 寛 (大阪環農水研) ナスへの赤色LED照射がミナミキイロアザミウマの生息密度に及ぼす影響	F215 ○里見 純 ¹ ・高部 真典 ² ・堀 雅彦 ³ ・土田 裕之 ⁴ (アリストライサイエンス株 ¹ ・山形県園芸試験場 ² ・西村山農業技術普及課 ³ ・JASがえ西村山 ⁴) 雨除け栽培オウトウのハダニ防除に天敵利用は可能か?

3月27日(金) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
G212 ○守屋 成一 ¹ ・ Ambra Quacchia ² ・ Giovanni Bosio ³ (中 央農研 ¹ ・Green Wood Service ² ・ Phytosani. Serv. Piedmont Reg. ³) イタリアに侵入した クリタマバチの伝統 的生物的防除の成功 と今後の課題	H212 ○相花 絵里・ 大江 高穂・加進 丈 二・土屋 稔 (宮城 古川農試) 宮城県における斑点 米カメムシ類の発生 実態	I212 ○澤村 信生・ 奈良井 祐隆 (島根 農技セ) フジコナカイガラム シの交尾時刻と雄成 虫の交尾能力につい て	J212 伊藤 英臣・西 郁美・○菊池 義智 (産総研・生物プロ セス) ホソヘリカメムシと <i>Burkholderia</i> の腸内 共生はどれくらい特 異的なのか?	K212 ○丹羽 隆介 1,2・諸橋 香奈 ¹ ・塩 谷 天 ¹ ・平野 陽太 ¹ ・小島 宏建 ³ ・岡部 隆義 ³ ・長野 哲雄 ³ ・ 小椋 麻美 ⁴ ・井上 英 史 ⁴ ・藤川 雄太 ⁴ (筑 波大・生命環境 ¹ ・ JST・さきがけ ² ・東 大・創セ ³ ・東京薬 大・生命 ⁴) エクジステロイド生 合成制御酵素 Noppera-boを標的と した昆虫発育制御剤 候補化合物のハイス ループットスクリー ニング	L212 ○前田 太郎 ¹ ・ 坂本 佳子 ² (生物研 ¹ ・ 環境研 ²) 日本におけるアカリ ンダニのミツバチ寄 生状況

11:45

3月27日(金) 午後 一般講演

G213 ○高須 啓志 ¹ ・ リカ ホアン ² (九 大・農 ¹ ・ノンラム大 学 ²) オオタバコガコマユ バチの大量飼育が寄 主探索行動に及ぼす 影響	H213 ○桐谷 幸生・ 山田 英一 (三井化 学アグロ) 被害米によるクモヘ リカメムシ発生量推 定	I213 渡辺 和弘 (山 形農総研七園試) 山形県におけるチャ ミノガの発生消長	J213 ○西出 雄大・ 古賀 隆一・深津 武 馬 (産総研・生物プ ロセス) チャバネアオカメム シにおける共生関連 細菌遺伝子の探索	K213 ○足立 康・中 野 元文・諏訪 明 之・藤岡 伸祐・坂 田 和之 (日本農業 株式会社) 新規殺ダニ剤ピフル ブミド (NNI-0711) に関する研究 (第6 報)	L213 ○光野 秀文・ 櫻井 健志・中島 裕 子・神崎 亮平 (東 大先端研) 昆虫の嗅覚受容体 を利用したカビ臭検 出素子の開発
G214 ○上船 雅義 ¹ ・ 小澤 理香 ² ・山岸 健 三 ¹ ・高林 純示 ² (名 城大・昆虫研 ¹ ・京 大・生態研 ²) アブラナ科植物ケル におけるプロヒド ロジャスモン処理に よる天敵誘引能の誘 導評価	H214 ○木村 学・間 佐古 将則 (和歌山 かき・もも研) ヒノキ花粉飛散数 データに基づく果樹 カメムシ類によるカ キの被害予測	I214 中村 浩昭 ¹ ・○ 山口 卓宏 ¹ ・西岡 一 也 ² ・嶽崎 研 ¹ (鹿 児島農総セ ¹ ・鹿児島熊 毛支庁 ²) 奄美・熊毛地域で多 発生したアフリカシ ロナヨトウの発生に ついて	J214 ○松浦 優 ^{1,2} ・ 竹下 和貴 ² ・前田 太 郎 ³ ・三浦 徹 ¹ ・重信 秀治 ³ ・菊池 義智 ² ・ 深津 武馬 ² (北大・ 地環研 ¹ ・産総研・生 物プロセス ² ・基生 研・生物機能情報 ³) ヒメナガカメムシ菌 細胞内共生細菌のゲ ノム解析	K214 ○播本 佳明・ 小林 彩・中村 元 太・兼次 克也・白石 郁雄 (ダウ・ケ ミカル日本株) 新規殺虫剤イソクラ スト TM に関する研究 (1)作用機作および 交差抵抗性の検討	L214 ○田中 亜紀子 ¹ ・ 光野 秀文 ² ・櫻井 健志 ² ・三澤 宣雄 ³ ・ 中島 裕子 ² ・神崎 亮 平 ^{1,2} (東大大学院情 理 ¹ ・東大先端研 ² ・ 豊橋技科大EIRIS ³) 昆虫嗅覚受容体を発 現させたSf21細胞を 並列配置した匂いセ ンサチップの開発
G215 ○村松 康一・ 秋元 信一 (北大・ 農・昆虫体系) 労働寄生性ゴールア ブラムシが受ける選 択圧の地理的変異	H215 ○崎山 進二 ¹ ・ 金崎 秀司 ¹ ・宮下 裕 司 ¹ ・森口 一志 ² (愛 媛農水果樹研セ ¹ ・ 愛媛防除所 ²) 果樹カメムシ類多発 温州ミカン園におけ る果皮障害果の発生	I215 ○山崎 和久 ¹ ・ Kai Schütte ² ・中 秀 司 ³ (岐阜大・応生 ¹ ・Zoologisches Museum Hamburg ² ・鳥 取大・農 ³) ムネアカハラビロカ マキリは何者か - 分 布の現状と生態的特 徴の報告および由来 に関する考察	J215 ○安佛 尚志・ 森山 実・深津 武馬 (産総研・生物プロ セス) 共生細菌 <i>Nardonella</i> はクロシンの合成を 介してクロカタゾウ ムシのクチクラ形成 に関与する	K215 ○小林 彩 ¹ ・播 本 佳明 ¹ ・中村 元太 ¹ ・兼次 克也 ¹ ・白石 郁雄 ¹ ・尾上 美和 ² ・ 春山 裕史 ³ (ダウ・ ケミカル日本株式会 社 ¹ ・北興化学工業株 式会社 ² ・日産化学工 業株式会社 ³) 新規殺虫剤イソクラ スト TM に関する研究 (2)殺虫症状, 速効 性, 温度と殺虫活性	L215 ○一木 良子 ^{1,5} ・ 中原 雄一 ² ・古 川 誠一 ³ ・田端 純 ⁴ ・中村 達 ¹ (国際農 研 ¹ ・農生研 ² ・筑波 大 ³ ・農環研 ⁴ ・学振 RPD ⁵) <i>In vitro</i> 実験系を用 いたヤドリバエ幼虫 の発育と行動観察

15:00

15:15

15:30

3月27日(金) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:45	A216 ○上地 俊久・加土井 仁 (横浜植防) ミバエ卵の迅速な生死判定にATP量分析は適用できるのか?	B216 ○峯岸 啓之・中牟田 潔 (千葉大・園芸) 日本産アジア型マイマイガに適した性フェロモントラップ	C216 ○淵刈 太郎 ¹ ・Ada Eban-Rothschild ² ・Moshe Nagari ³ ・Guy Bloch ³ (京大院・農・昆虫生態 ¹ ・Stanford Univ. ² ・Hebrew Univ. ³) 社会性昆虫ミツバチのコロニーにおける内勤バチの体内時計時刻の決定に対する他個体の影響	D216 ○堀 智博・矢野 修一 (京大院・農・生態情報) 葉の表面構造がカブリダニの被食回避に及ぼす影響	E216 ○田中 雅也・八瀬 順也・神頭 武嗣 (兵庫農技総セ) UVB照射によるアブラムシ類・アザミウマ類密度抑制の可能性	F216 ○増井 伸一・片山 晴喜 (静岡県果樹研究センター) カンキツ園の防風垣におけるチャノキイロアザミウマとカブリダニ類の発生
16:00	A217 ○小滝 豊美 ¹ ・向井 歩 ² ・松本 圭司 ² ・志賀 向子 ² (農業生物資源研究所・大阪市大・院理 ²) アブラゼミおよびクマゼミの卵巣発育	B217 ○手嶋 伸・志野 雄一郎・佐久間 正幸 (京大院・農・昆虫生理) いろいろな方法で風向を知るノシメマダラメイガ	C217 ○小島 渉 ¹ ・加藤 俊英 ² (東大・情報学環 ¹ ・東大・教養 ²) なぜ一部の甲虫は鞘翅をほとんど閉じたまま飛翔するか	D217 ○足立 真陽・矢野 修一 (京大院・農・生態情報) アリの介したアブラムシのカブリダニに対する間接効果	E217 ○村上 芳照 ¹ ・高橋 弘行 ² ・内田 一秀 ¹ ・綿打 享子 ¹ ・功刀 幸博 ¹ (山梨果試 ¹ ・(株)サイエナジー ²) モモ果実輸出に向けた軟X線を用いたモモシンクイガ被害果の検出 —その2 検出精度に関する要因と精度の向上—	F217 ○中井 善太 ¹ ・大谷 徹 ¹ ・清水 健 ¹ ・大井田 寛 ² (千葉県農林総研セ ¹ ・千葉県立農業大学校 ²) 秋冬ネギにおけるハゼリソウ間作によるネギアザミウマ密度抑制
16:15	A218 森 彩乃 ¹ ・早川 優輝 ¹ ・加藤 大貴 ¹ ・水口 智江可 ¹ ・田中 利治 ¹ ・横井 翔 ¹ ・神谷 克巳 ² ・○三浦 健 ¹ (名大院・生命農 ¹ ・岐阜県農技センター ²) コクヌストモドキの免疫系の他の系との干渉と発育に伴う変化	B218 ○尾崎 克久 ¹ ・武藤 愛 ² ・小寺 正明 ³ ・吉川 寛 ¹ (JT生命誌研究館 ¹ ・奈良先端大 ² ・東工大 ³) NGSを使ったアゲハチョウの食草選択に関わる化学感覚受容体遺伝子の探索	C218 ○伊藤 桂 ¹ ・増田 智恵子 ² ・田村 香織 ² (高知大学生命環境医学部門 ¹ ・高知大学農学部 ²) カシノキマタハダニの雄間闘争と空間分布	D218 長 泰行 (千葉大・応用昆虫) 攻めるか逃げるか? : ミカンキイロアザミウマの対捕食者行動	E218 ○新井 朋徳・外山 晶敏・芦原 亘 (農研機構・果樹研) ブドウ「シャインマスカット」における透湿性反射シートマルチによるフタテンヒメヨコバイの被害低減効果	F218 ○河野 勝行・飯田 博之・北村 登史雄・武田 光能 (農研機構野菜茶業研究所) キャベツ圃場における被覆作物の有無が地表徘徊性捕食性天敵に与える影響
16:30	A219 緒方 法親 (株日本バイオデータ) 桑の葉を用いたカイコ脂肪体の生体内的組織培養	B219 ○門澤 智広・堀 雅敏 (東北大院農) ホオズキおよびオオセンナリの生葉に含まれるオオニジュウヤホシテントウの摂食阻害物質に関する研究	C219 ○蔡 永海 ¹ ・伊藤 桂 ¹ ・福田 達哉 ¹ ・荒川 良 ¹ ・齋藤 裕 ² (高知大・農 ¹ ・福建省農業科学院 ²) タケスゴモリハダニおよびその近縁種における雄間闘争の変異	D219 大澤 直哉 (京大院) ナミテントウ野外個体群における体サイズに関連した非選択交尾	E219 ○加藤 寛・宮田 恵佑・村井 保 (宇都宮大学) 高濃度炭酸ガスの各種害虫に対する防除効果と作物への影響 (1) : イチゴのハダニ、アブラムシ類に対する防除効果	F219 ○軸丸 祥大・森田 剛成 (広島総研 農技C) 人工飼育個体群を用いたアイノキクイムシに対する薬剤殺虫効果評価系の開発

3月27日(金) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G216 ○屋良 佳緒利 ¹ ・上杉 龍士 ² ・佐藤 安志 ¹ (農研機構・野茶研・金谷 ¹ ・農研機構・中央農研 ²) 静岡県内のチャトゲコナジラミに寄生するシルベストリコバチの系統について	H216 ○青山 政義・西島 裕恵・塩谷 佳和・大窪 延幸(富山農総セ農研) 合成フェロモンを活用したダイズカメムシ類の効率的予察手法および防除法	I216 安藤 喜一(弘前市) 津波でオオカマキリの卵は死亡するか?	J216 ○相川 拓也 ¹ ・前原 紀敏 ¹ ・升屋 勇人 ¹ ・中村 克典 ¹ ・安佛 尚志 ² (森林総研東北 ¹ ・産総研・生物プロセス ²) 森林昆虫ビロウドカミキリから検出されたボルバキアについて	K216 ○須藤 正彬・高橋 大輔・山中 武彦(農環研) 複数剤を有効に使った抵抗性管理:害虫生活史と薬剤施用形態の重要性	L216 ○高野 俊一郎 ¹ ・高須 啓志 ¹ ・一木 良子 ² ・中村 達 ² (九大・農 ¹ ・(独)国際農研 ²) キムネクロナガハムシ食害ココヤシ葉に対する幼虫寄生蜂と蛹寄生蜂の異なる反応	15:45
G217 ○手柴 真弓 ¹ ・清水 信孝 ¹ ・杉江 元 ² ・田端 純 ² (福岡農林試 ¹ ・農環研 ²) 現地カキ園における寄生蜂誘引物質のフジコナカイガラムシに対する防除効果	H217 ○遠藤 信幸 ¹ ・弘中 満太郎 ² (九州沖縄農研 ¹ ・浜松医大 ²) カメムシ類を対象とした簡易LEDトラップの開発	I217 本田 善之(山口農林総セ) 脂質を添加した資材によるホウレンソウケナガコナダニの防除対策	J217 ○杉本 貴史 ¹ ・土田 努 ¹ ・粥川 琢己 ² ・篠田 徹郎 ² ・石川 幸男 ³ (富山大・先端ライフ ¹ ・生物研 ² ・東大院・農 ³) アズキノメイガの性的特異的致死現象には遺伝子量補償の異常が関与している	K217 ○鈴木 芳人 ¹ ・高橋 智 ² (京都市 ¹ ・奈良女子大 ²) 半倍数性害虫における殺虫剤抵抗性発達	L217 榊原 充隆(東北農業研究センター) 東北地方のウコンノメイガ寄生者相のダイズ・イラクサ科植物間差異	16:00
G218 ○松尾 和典 ¹ ・本田 知大 ² ・糸山 享 ² ・外山 晶敏 ³ ・広瀬 義躬 ⁴ (徳島農総技セ ¹ ・明治大院 ² ・果樹研 ³ ・九大 ⁴) ツヤアオカメムシの卵寄生蜂の初発見	H218 ○大仲 桂太 ¹ ・真弓 大伸 ² ・田中 千晴 ² ・西野 実 ¹ ・水谷 信夫 ³ ・遠藤 信幸 ³ (三重県農業研究所 ¹ ・三重県病害虫防除所 ² ・九州沖縄農研 ³) 三重県におけるミナミアオカメムシの予察灯の誘殺消長と発生世代の関係	I218 ○早坂 祐典・糸山 享(明治大農・応用昆虫) 5地域から得たホウレンソウケナガコナダニ個体群に対する数種有機リン剤の殺虫活性	J218 金城 幸宏 ^{1,2} ・Nalepa Christine ³ ・本郷 裕一 ¹ ・大熊 盛也 ² ・徳田 岳 ⁴ (東工大・生命理工 ¹ ・理研・JCM ² ・ノースカロライナ州立大 ³ ・琉球大・熱生研 ⁴) キゴキブリ集団間における細胞内共生細菌 <i>Blattabacterium</i> の比較ゲノム解析	K218 ○真田 幸代・砥綿 知美・松村 正哉(九州沖縄農研センター) 局所施用と次世代幼虫数抑制効果によるピメトロジン感受性新検定法のイネウンカ類3種への適用	L218 ○中 秀司・森下 真次・武安 貴史・富田 智子・森田 崇夫(鳥取大・農) シロオビノメイガ寄生蜂 <i>Apanteles</i> sp. の生態に関する基礎的研究	16:15
G219 ○保坂 春・矢野 栄二・橋本 奈都揮・津本 真都理・今井 正貴(近畿大・農) ミナミキイロアザミウマを餌とした場合のタバコカスミカメの増殖能力	H219 ○徳丸 晋 ¹ ・鴨志田 徹也 ² ・新谷 雅敏 ³ ・上田 由里子 ³ ・齊藤 篤 ³ (京都府病害虫防除所 ¹ ・京都市南丹農改普セ ² ・JA京都中央 ³) 京都府におけるミナミアオカメムシの寄主植物利用様式	I219 ○砂原 明日美 ¹ ・上遠野 富士夫 ¹ ・土田 聡 ² ・中畝 良二 ² ・井原 史雄 ² ・杉浦 直幸 ³ ・口木 文孝 ⁴ (法政大・生命科学 ¹ ・農研機構・果樹研 ² ・熊本農研セ・果樹研 ³ ・佐賀果試 ⁴) モザイク症状を発症するナシ樹におけるサビダニの越冬場所からの離脱時期および新梢先端葉におけるサビダニの寄生部位とモザイク症状発症部位との関係	J219 ○Cornette Richard ¹ ・Gusev Oleg ² ・末次 克行 ¹ ・畑中 理恵 ¹ ・志村 幸子 ¹ ・奥田 隆 ¹ ・黄川 田 隆洋 ¹ (生物研 ¹ ・カザン大学 ²) 比較ゲノム解析から分かってきたネムリユスリカの極限乾燥耐性	K219 ○伊原 嶺 ¹ ・刑部 正博 ¹ ・T. Van Leeuwen ² (京大院農・生態情報 ¹ ・Univ. Amsterdam ²) ナミハダニのシフルメトフェン抵抗性における雌雄および系統間差異	L219 ○広瀬 義躬 ¹ ・横山 岳 ² ・松尾 和典 ³ ・伴野 豊 ⁴ ・広瀬 義躬(九大) ¹ ・横山 岳(農工大・農) ² ・松尾和典(徳島農総技セ) ³ ・伴野 豊(九大院・農) ⁴ チョウ目昆虫の卵寄生蜂のカイコ卵への寄生には卵の硬さとサイズが影響する	16:30

3月27日(金) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:45	A220 ○木内 隆史 ¹ ・平松 佑介 ¹ ・山野 峻 ¹ ・大門 高明 ² ・勝間 進 ¹ ・嶋田 透 ¹ (東大農 ¹ ・生物研 ²) カイコにおける消化酵素遺伝子のノックアウトが及ぼすクワ食性への影響	B220 富塚 敦・○佐久間 正幸(京大院・農・昆虫生理) アミンを含まない餌で飼育したチャバネゴキブリの集合誘引フェロモンの分析	C220 横井 智之(筑波大・生命環境) ニホンミツバチによるレタスカじり行動の実態と季節性	D220 ○各務 成洋・大澤 直哉(京大院農森林生態) ナミテントウメスの体長とメールキラー感染の関係	E220 ○宮田 恵佑・加藤 寛・村井 保(宇都宮大学) 高濃度炭酸ガスの各種害虫に対する防除効果と作物への影響(2)：高温短時間処理の野菜苗への影響	F220 ○佐藤 安志・佐野 正和(野茶研金谷) I G R 剤の効率利用によるチャのクワシロカイガラムシの長期防除
17:00	A221 佐藤 礼菜・加藤 良晃・○田中 利治(名大院・生命農学) Meteorus pulchricornis teratocyteの役割	B221 ○伊藤 優希 ¹ ・大村 尚 ¹ ・藤井 毅 ² ・石川 幸男 ² (広島大・院・生物圏 ¹ ・東大院農・応用昆虫 ²) モンシロチョウのメスにおける交尾による嗅覚応答の変化	C221 ○宇賀神 篤 ^{1,2} ・佐々木 哲彦 ³ ・小野 正人 ¹ (玉川大・院農・昆虫機能 ¹ ・学振PD ² ・玉川大・ミツバチ科学 ³) クロマヤアリ帰巣個体における初期応答遺伝子を利用した脳内神経活動の解析	D221 ○貴志 学 ¹ ・松野 茂富 ² ・岸 茂樹 ³ (和歌山果試うめ研 ¹ ・和歌山自然博 ² ・京大・生態研 ³) アカマダラケシキスイの雌雄判別法と分布様式	E221 ○岩澤 薫・佐藤 智(山形大・農) 2種の機械除草法が節足動物の発生に与える影響	F221 ○浜崎 健児・城塚 可奈子・柴尾 学(大阪環農水研) ミナミキイロアザミウマ幼虫に対する簡易な薬剤検定手法の有効性

3月27日(金) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
<p>G220 ○矢野 栄二・渡部 宏・渡辺 崇仁・木村 隼人・藤井 美穂 (近畿大・農)</p> <p>タバコカスミカメのミナミキイロアザミウマに対する捕食能力</p>	<p>H220 ○水谷 信夫¹・石川 博司²・田中 千晴³・西野 実⁴ (九州沖縄農研¹・愛知農総試²・三重防除所³・三重農研⁴)</p> <p>熊本市近郊のコムギ、水稻、ダイズにおけるミナミアオカメムシとアオクサカメムシの分布</p>	<p>I220 ○杉浦 直幸¹・山田 一字¹・上村 浩憲²・古田 智範³ (熊本農研七果樹研¹・八代農業普及・振興課²・熊本果実連JA八代駐在³)</p> <p>ナシのモザイク症状(仮称)多発園地における発症様式と発症時期</p>	<p>J220 ○大野 瑞紀¹・柴田 洋²・石川 幸男³・中野 亮⁴・安河内 祐二⁵・佐原 健¹ (岩大農¹・愛媛大教育²・東大院農³・果樹研⁴・生物資源研⁵)</p> <p>ヨーロッパアワノメイガとカイコとの染色体比較から見えてくるもの</p>	<p>K220 ○只津 美苑¹・石田 達也²・刑部 正博¹ (京大農・生態情報¹・協友アグリ²)</p> <p>ミカンハダニのエトキサゾール抵抗性と作用点変異の解析</p>	<p>L220 ○飯塚 弘明¹・後藤 秀章²・大澤 直哉¹ (京大院農¹・森林総研九州²)</p> <p>ブナ科樹木萎凋枯死に関わる養菌性キクイムシ類と天敵</p>	16:45
<p>G221 ○西森 敬晃¹・三浦 一芸² (広島大学・生物圏¹・近中四農研・広島大²)</p> <p>タイリクヒメハナカメムシ <i>Orius strigicollis</i> の飼育における代替エサの検討</p>	<p>H221 ○西野 実¹・大仲 桂太 (三重県農業研究所)</p> <p>2012年～2014年の三重県におけるミナミアオカメムシの分布域変動とその要因</p>	<p>I221 ○武井 円¹・上遠野 富士夫¹・宮崎 俊宏²・青山 一輝²・砂原 明日美²・三田 村 敏正³・荒川 昭弘⁴ (法政大院・理工¹・法政大・生命科学²・福島農総七浜研³・福島農総七⁴)</p> <p>東京都におけるユキヤナギハマキフシダニ <i>Eriophyes</i> sp. の生活環</p>	<p>J221 ○藤本 章晃¹・吉戸 敦生²・鈴木 剛³・安河内 祐二⁴・佐原 健¹ (岩大農¹・ASCR²・大教大³・生物資源研⁴)</p> <p>毛翅目昆虫ヒゲナガカワトビケラのBAC-FISHマッピング</p>	<p>K221 ○井尻 悠士¹・刑部 正博¹・T. Van Leeuwen² (京大院農・生態情報¹・University of Amsterdam²)</p> <p>ペリダベン抵抗性における卵限定的母性効果発現機構の解析</p>		17:00

3月28日(土) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A301 櫻井 宏樹 ¹ ・田崎 英祐 ^{1,2} ・仁田尾 優 ¹ ・松浦 健二 ³ ・○井内 良仁 ^{1,2} (山口大 農 生機 ¹ ・鳥取大 連農 生資 ² ・京都大 農 資生 ³) ヤマトシロアリの高い抗酸化能と尿酸の機能	B301 ○松尾 晃史朗・小野 正人(玉川大・院・昆虫機能) クロマルハナバチにおける新女王養成シグナル	C301 福井 昌夫(京大院農・昆虫生理) タイワンエンマコオロギは性衝動に誘起されて複雑なコーリングソングを歌う	D301 ○森本 信生 ¹ ・山中 武彦 ² ・桐谷 圭治 ³ ・守屋 成一 ⁴ (畜草研 ¹ ・農環研 ² ・伊東市 ³ ・中央農研 ⁴) 日本および北米、ハワイにおける外来昆虫相とその定着年次、原産地の比較	E301 ○塩尻 かおり ¹ ・齋藤 隆満 ⁵ ・松井 健二 ³ ・塚本 知玄 ⁴ ・小澤 理香 ² ・高林 純示 ² ・山下 賢一 ⁵ (京大・白眉センター ¹ ・京大・生態研 ² ・山口大院医(農) ³ ・岩手大・農 ⁴ ・兵庫県農技セ ⁵) 植物間コミュニケーションを用いた農業技術開発(3)ー水田・ダイズ圃場における実証試験ー	F301 杖田 浩二(岐阜農技セ) フジコナカイガラムシの性フェロモンに対する寄生蜂2種の誘引性とその利用に向けた取り組みについて
9:15	A302 ○田崎 英祐 ^{1,2} ・櫻井 宏樹 ² ・仁田尾 優 ² ・松浦 健二 ³ ・井内 良仁 ^{1,2} (鳥取大 連農 生資 ¹ ・山口大 農 生機 ² ・京都大 農 資生 ³) ヤマトシロアリの尿酸を利用した抗酸化システム	B302 ○松山 日名子・小野 正人(玉川大・院・昆虫機能) 実験室内におけるクロマルハナバチの巣の引継ぎがコロニー発達へ及ぼす影響	C302 ○横山 朋也・高木 素紀・鹿島 哲郎(茨城農総・セ) 茨城県におけるネギアザミウマ産雄単為生殖型の分布状況と薬剤感受性	D302 ○坂本 佳子 ¹ ・大西 一志 ¹ ・森 英章 ² ・今井 仁 ² ・戸田 光彦 ² ・岸本 年郎 ³ ・五箇 公一 ¹ (国環研 ¹ ・自然研 ² ・静岡県庁 ³) 東京港湾における外来アリ類の誘引トラップ調査	E302 ○小澤 理香 ¹ ・塩尻 かおり ² ・山下 賢一 ³ ・高林 純示 ¹ (京大・生態研 ¹ ・京都大・白眉センター ² ・兵庫農技セ ³) 植物間コミュニケーションを用いた農業技術開発(4)ー揮発性成分による害虫抵抗性の誘導の検証ー	F302 ○安藤 緑樹 ¹ ・原口 大 ¹ ・江口 恭 ² ・細川(宇久田) 理恵 ³ ・西田 律夫 ² ・小野 肇 ² ・金城 邦夫 ¹ ・佐渡山 安常 ³ (沖縄農研セ ¹ ・京大院農 ² ・沖縄防技セ ³) ナスミバエ誘引物質に対する雄成虫の羽化後日齢が誘引反応に与える影響および不妊虫と正常虫の誘引反応比較
9:30	A303 村上 実菜子 ¹ ・奥平 良弥 ² ・益本 祐希 ¹ ・安部 成美 ¹ ・落合 正則 ³ ・北沢 千里 ⁴ ・○山中 明 ^{1,2,5} (山口大・理・生物・化学 ¹ ・山口大・理・自然情報科学 ² ・北大・低温研 ³ ・山口大・教育・理科教育 ⁴ ・山口大・院医系・応用分子 ⁵) 数種のチョウ成虫の翅に生じる毛状鱗粉と季節型との関連性	B303 ○久保 良平 ¹ ・小野 正人 ² (玉川大・学術研・ミツバチ科学 ¹ ・玉川大・農・生物資源 ²) 同所性マルハナバチの雄蜂が頭部下唇腺で生産する香りの機能解析	C303 ○諸岡 歩希・大内 康平・柳澤 夏樹・曾根 良太・郡司 涼・小島 純一(茨城大学) チビアシナガバチ属 <i>Ropalidia</i> 分単種の形態カースト分化	D303 江見 健太郎・古木 隆寛・馬本 典交・関本 岳朗・中城 満・○原田 哲夫(高知大・院・環境生理) ナミアメンゴ高知市・南国市及び四万十市個体群の生活史変動と地球温暖化 ²	E303 ○佐藤 信輔・横山 朋也・鹿島 哲郎(茨城農総セ・園研) クリ果実を加害するクリシギゾウムシ <i>Curculio sikkimensis</i> (甲虫目:ゾウムシ科) に対する行動抑制効果を期待した薬剤防除に関する研究	F303 ○原口 大 ¹ ・安藤 緑樹 ¹ ・江口 恭 ² ・西田 律夫 ² ・熊野了州 ^{3,4} ・金城 邦夫 ¹ ・佐渡山 安常 ⁴ (沖縄農研セ ¹ ・京大院農 ² ・琉球産経 ³ ・沖縄防技セ ⁴) ナスミバエの実用的なトラップ形状と誘引剤の検討
9:45	A304 ○松本 由記子 ¹ ・末次 克行 ¹ ・中村 匡利 ¹ ・小松 節子 ² ・野田 博明 ¹ ・服部 誠 ¹ (生物研 ¹ ・作物研 ²) ツマグロヨコバイ唾液腺のトランスクリプトームおよび唾液タンパク質のプロテオーム解析	B304 ○原野 健一 ¹ ・林 雅貴 ² ・中村 純 ¹ (玉川大・ミツバチ科学 ¹ ・玉川大・院・農 ²) ミツバチの採餌蜂は燃料として高濃度のハチミツを利用しているか?	C304 三田 敏治 ^{1,2} (九冲農研セ ¹ ・学振PD ²) 日本海沿岸地域におけるクロハラカマバチの遺伝的集団構造	D304 及川 美穂・○小林 沙和・上遠野 富士夫(法政大・生命科学) 神奈川県多摩川河川敷のセイタカアワダチソウにおけるアワダチソウグンバイの発生活長と年間世代数の推定	E304 ○岩本 哲弥・本田 義之・安永 真(山口農林総セ) 薬剤の樹幹注入によるクリシギゾウムシ防除の検討	F304 ○城塚 可奈子・磯部 武志・三輪 由佳・柴尾 学(大阪環農水研) イチジクにおけるアザミウマ類の発生活長および果実内虫数と被害程度との関係

3月28日(土) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>G301 ○藤田 一平¹・安井 行雄¹・渡邊 丈夫²・森 光太郎³・伊藤 勇弥³ (香川大・農・昆虫¹・香川農試²・石原産業中央研³) イチゴ圃場でのアカメガシワクダアザミウマの分布と広がり</p>	<p>H301 ○八瀬 順也¹・柳澤 由加里¹・城戸 剛²・田中 雅也¹ (兵庫農技総セ¹・兵庫県農産園芸課²) 兵庫県におけるヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒率の成, 幼虫間差</p>	<p>I301 ○Ghazy Noureldin・Amano Hiroshi (Kyoto University) Biology of <i>Neoseiulus californicus</i> and <i>Tetranychus urticae</i> at simulated natural temperature</p>	<p>J301 ○吉田 昭広¹・坂巻 祥孝²・児玉 隆治¹ (基生研・構造多様性¹・鹿児島大・農²) キバガの翅のかたちの形成: 蛹期における細胞死と組織収縮</p>	<p>K301 ○村田 未果^{1,2}・釘宮 総一²・望月 淳²・光原 一朗¹・瀬尾 茂美¹ (独) 生物研¹・(独) 農環研²) 植物の新規害虫抵抗性誘導物質TRI-1による抵抗性誘導機構の解明に向けて</p>	9:00
<p>G302 ○河村 俊和¹・東浦 祥光¹・本田 善之¹・岩本 哲弥¹・森 光太郎²・大朝 真喜子² (山口農林総セ¹・石原産業中央研²) イチゴにおけるアカメガシワクダアザミウマの効率的導入技術の検討</p>	<p>H302 小山田 浩一 (栃木農環セ) 黄色粘着板によるヒメトビウンカ成虫の発消長把握の試み</p>	<p>I302 ○武田 藍¹・國友 映理子¹・山本 幸洋¹・原田 浩司¹・小原 裕三² (千葉県農林総合研究センター¹・農業環境技術研究所²) 黒ボク土におけるクロールピクリン処理時のガスバリアー性フィルム被覆によるサツマイモネコブセンチュウ防除効果の改善</p>	<p>J302 越川 滋行 (京都大学白眉センター) ショウジョウバエの翅模様を制御する因子の発現パターンの進化</p>	<p>K302 ○岡本 崇・岩橋 良典・林 恭弘 (和歌山県農業試験場) ネオニコチノイド剤2剤のワタアブラムシに対する効果実態</p>	9:15
<p>G303 杉田 明優¹・○国本 佳範²・伊藤 健司³・矢野 栄二¹ (近畿大学農学部¹・奈良県農業研究開発センター²・株式会社アグリ総研³) 施設栽培スイカでの飛ばないナミテントウの放飼方法について</p>	<p>H303 衛藤 友紀 (佐賀農業セ) 本田中期に多発したセジロウンカによる水稲の被害</p>	<p>I303 ○横山 とも子・中村 耕士・武田 藍 (千葉農林総研) 千葉県の秋冬ネギ産地におけるネコブセンチュウの発生状況</p>	<p>J303 ○河村 聡一郎・齊木 亮太・矢口 甫・前川 清人 (富大院理工) ネバダオオシロアリの兵隊における生殖腺発達の調節機構</p>	<p>K303 ○土田 聡¹・平田 晃一²・山本 敦司²・岩佐 孝男²・三代 浩二¹ (農研機構果樹研¹・日本曹達²) ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの遺伝子診断法の開発</p>	9:30
<p>G304 浦野 忠久 (森林総合研究所) 捕食寄生性甲虫サビマダラオオホソカタムシの6種類のカミキリムシに対する寄生率および発育状況の比較</p>	<p>H304 ○相澤 美里¹・太田 泉²・渡邊 丈夫¹・武田 光能² (香川農試¹・野菜茶研²) タバココナジラミの黄色粘着トラップへの誘引距離</p>	<p>I304 ○堀越 義広・安部 豊・久井 潤也 (横浜植防) 複数種を含む大量のネコブセンチュウから各種線虫を識別する手法の検討</p>	<p>J304 ○Gebreziher Haftay・Nakamuta Kiyoshi (千葉大院・園芸) Effect of temporal multi-species herbivory on the behavioral responses of <i>Orius strigicollis</i></p>	<p>K304 ○志賀 紗智¹・後藤 千枝²・上杉 龍士² (宮城防除所¹・中央農研²) 宮城県におけるコナガの薬剤抵抗性遺伝子診断の試み</p>	9:45

3月28日(土) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:00	A305 藤井 毅 ¹ ・山本雅信 ¹ ・中野 亮 ¹ ・○戎 焯 ¹ ・董 双林 ² ・石川 幸男 ¹ (東大農 ¹ ・南京農大 ²) Type II 性フェロモンを分泌するキマエホソバ(<i>Eilema japonica</i>)及びType I を分泌するガ類の血液中に含まれる不飽和炭化水素の解析	B305 ○林 雅貴 ¹ ・原野 健一 ² ・中村 純 ² (玉川大・院・農 ¹ ・玉川大・ミツバチ科学 ²) セイヨウミツバチはダンスで伝達された餌場の質に応じて行動を変化させる	C305 ○矢代 敏久 ¹ ・宮国 泰史 ¹ ・松浦 健二 ¹ ・竹松 葉子 ² (京大院・農・昆虫生態 ¹ ・山口大・農 ²) シロアリ下目における隠蔽種の発見：日本・台湾産コウシュンシロアリ属の分類学的再検討	D305 ○伊藤 広記・大澤 直哉 (京大・農・森林生態) オオゴキブリ若齢幼虫の集合性と血縁認識	E305 ○齋藤 大郎・大賀 重幸 (那覇植防) R b マーキングがアリモドキゾウムシの交尾能力・分散能力に与える影響	F305 ○東浦 祥光 ¹ ・西 一郎 ¹ ・吉田 陸浩 ² (山口県農林総合セ・柑振セ ¹ ・九州沖縄農研 ²) ミカンバエ (<i>Bactrocera tsuneonis</i>) に対する昆虫病原性線虫数種の感染能力
10:15	A306 山本 雅信・○藤井 毅・石川 幸男 (東大院農) アワノメイガ類にオスの性フェロモンは本当にあるのか？	B306 光畑 雅宏 (アライサイエンス株) 二種ポリネーターの併用が施設イチゴ栽培の収穫量に与える影響 (本報)	C306 ○大林 隆司 ¹ ・北村 登史雄 ² (都小笠原亜熱帯農セ ¹ ・野菜茶研 (野菜IPM) ²) 小笠原 (父島, 母島) のタバココナジラミのバイオタイプの実況	D306 ○土田 浩治・大島 紗織 (岐阜大応用生物) ニュージーランドに侵入したフタモンアシナガバチの形質変化	E306 吉松 孝宏 (鹿児島大島特殊病害虫) 沖縄県由来アリモドキゾウムシ黒褐色系統と既存増殖系統との虫質の比較	F306 ○羽田 厚 ¹ ・日本 典秀 ² (岩手農研 ¹ ・中央農研 ²) リンゴ園地での殺ダニ剤散布がナミハダニ個体群の遺伝学的構造に及ぼす影響
10:30	A307 ○宇高 寛子 ¹ ・Brent Sinclair ² (京大・院理 ¹ ・ウエスタンオンタリオ大 ²) キイロショウジョウバエにおけるFrost 遺伝子の発現と低温耐性	B307 ○木村 澄 ¹ ・Pettis Jeff ⁴ ・齋藤 佳奈 ³ ・本堂 海 ³ ・菲澤 圭二郎 ² ・芳山 三喜雄 ¹ (畜草研 ² ・筑波大生命環境科学 ³ ・USDA-ARS, Bee lab. ⁴) 代用花粉の一時的給与によるミツバチ花粉収集量への影響	C307 井上 広光 (農研機構・果樹研) 日本産キジラミ類のDNAバーコーディングと種の識別	D307 甲山 哲生 ¹ ・堀川 千佳 ² ・川合 静 ² ・四方 恵 ² ・○佐藤 宏明 ² (北大 ¹ ・奈良女 ²) 奈良公園におけるアカタテハの局所的適応進化	E307 ○加藤 綾奈 ¹ ・星 秀男 ^{1,2} ・山口 修平 ¹ ・竹内 浩二 ^{1,3} (東京農総研 ¹ ・現東京小笠原農セ ² ・現東京島しょセ大島 ³) 東京都青梅市の春季のウメにおけるアブラムシ類の発生生態とPPV拡散防止を主眼とした防除対策	F307 ○神川 諭 ¹ ・日本 典秀 ² (奈良農研開セ ¹ ・農研機構中央農研 ²) DNAマーカーを用いたオオタバコガの捕食性天敵の検索
10:45	A308 ○神村 学 ¹ ・上 樂 明也 ¹ ・後藤 慎介 ² (生物研 ¹ ・大阪市大・院理 ²) 脱皮ホルモン消失により休眠誘導されたオオワタノメイガの耐寒性獲得機構	B308 ○山口 悠太・小野 正人 (玉川大・農・昆虫機能) 「熱殺蜂球」への参加がニホンミツバチ働き蜂の寿命へ与える影響	C308 ○山路 拓也 ¹ ・石川 忠 ² ・野村 昌史 ¹ (千葉大院・園芸 ¹ ・東京農大・農 ²) ミトコンドリアDNAを用いたマルシラホシカメムシの地理的変異	D308 渡邊 紗織 (北大・農・動物生態) ヨモギヒゲナガアブラムシの 色彩多型維持メカニズムの解明	E308 ○横田 啓・福田 拓斗 (岩手県北農研) たまねぎ春まき作型における殺虫剤・殺細菌剤散布が収量や腐敗に及ぼす影響	F308 ○上地 奈美・長岡 (中蘭) 栄子・岩波 徹 (農研機構・果樹研) 日本産ミカンクロアブラムシのDNAバーコーディング領域の塩基配列の決定と国内各地や外国産との比較

3月28日(土) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>G305 ○中野 昭雄¹・山中 聡² (徳島農総技セ¹・アリスタライフサイエンス(株)²) 新規導入天敵リモニカスカブリダニのナス促成栽培での利用効果</p>	<p>H305 ○春山 直人¹・中澤 佳子¹・藤原 亜希子²・土田 努² (栃木農環セ¹・富山大先端²) 栃木県におけるタバコナジラミバイオタイプQ2の発生状況と薬剤感受性</p>	<p>I305 松崎 正典¹・阿部 成人¹・和田 健太郎¹・中野 昭雄¹・佐藤 恵利華²・豊田 剛己³ (徳島農総技セ¹・近中四農研²・東京農工大学³) 徳島県北東部砂地畑のサツマイモ栽培におけるサツマイモネコブセンチュウ <i>Meloidogyne incognita</i> の要防除水準の設定</p>	<p>J305 秋月 岳 (農業生物資源研・昆虫成長制御研究ユニット) カイコ細胞質多角体病ウイルス (BmCPV-1) p101タンパク質に存在する2Aペプチド様配列の昆虫培養細胞中での自己開裂能の解析</p>	<p>K305 ○中村 有希¹・真田 幸代²・松村 正哉²・末次 克行¹・上樂 明也¹・山本 公子¹・野田 博明¹・篠田 徹郎¹ (生物研¹・九州沖縄農研²) トビイロウンカにおけるイミダクロブリド抵抗性原因遺伝子の同定</p>	
<p>G306 ○池川 雄亮¹・江副 日出夫¹・難波 利幸¹・森 光太郎²・大朝 真喜子²・藤田 一平³・渡邊 丈夫⁴ (大阪府大院・理¹・石原産業中央研²・香川大院・農・昆虫³・香川農試⁴) 果実の摘果が生物的防除の効率に与える影響についての数理的考察</p>	<p>H306 ○山内 崇・小野 誠 (熊本農研セ) 熊本県における侵入害虫チャトゲコナジラミの発生生態</p>	<p>I306 ○伊藤 賢治¹・奈良部 孝¹・佐久間 太²・臼木 一英¹・相場 聡¹・小野寺 鶴将³ (農研機構・北農研¹・雪印種苗²・道総研³) ジャガイモシストセンチュウ密度低減のためのトマト野生種 <i>Solanum peruvianum</i> の実用的短期間栽培技術</p>	<p>J306 ○富田 秀一郎¹・末次 克行²・上樂 明也²・河本 夏雄¹・行弘 研司¹ (生物研・組換えカイコ¹・生物研・昆虫ゲノム²) 日本産クワコのゲノム解析について</p>	<p>K306 ○糸川 健太郎¹・小川 浩平¹・駒形 修¹・富田 隆史 (国立感染症研究所・昆虫医科学部) ゲノム編集による殺虫剤解毒酵素遺伝子のノックアウト</p>	
<p>G307 ○安部 順一郎¹・世古 智一¹・飛川 光治²・川村 宜久²・網島 健司²・西 優輔² (農研機構・近中四農研¹・岡山農研²) 景観植物スカエボラによる天敵温存効果の検証と生産現場への導入</p>	<p>H307 ○溝部 信二・中川 浩二・殿河内 寿子 (山口農林総セ) アザミウマ類の簡易薬剤感受性検定法ーチャック付きポリ袋を使った抵抗性の確認ー</p>	<p>I307 ○奈良部 孝¹・岩倉 優²・谷野 圭持² (北海道農研¹・北大院理²) 現地圃場における合成ふ化促進物質 Solanoclepin A のジャガイモシストセンチュウ密度低減効果</p>	<p>J307 ○池田 隆¹・内山 郁夫²・重信 秀治²・佐々木 哲彦³・升井 伸治¹ (京都大・CiRA¹・基生研²・玉川大・学術研³) 異種生物を利用した新規遺伝子機能解析系の開発</p>	<p>K307 ○松田 健太郎¹・田中 弘太¹・岩崎 勇次郎² (静岡県病害虫防除所¹・静岡県中部農林事務所²) 静岡県の施設栽培バラにおけるナミハダニの薬剤感受性</p>	
<p>G308 ○西 優輔¹・畔柳 泰典¹・網島 健司¹・安部 順一郎² (岡山農研¹・農研機構・近中四農研²) 促成栽培ナス圃場におけるスワルスキーカブリダニの温存に適した景観植物の検討</p>	<p>H308 ○奈良井 祐隆¹・澤村 信生¹・佐々木 力也²・田端 純³ (島根農総セ¹・富士フレーザー²・農環研³) クワコナカイガラムシ <i>Pseudococcus comstocki</i> の性フェロモントラップにおいて雄成虫を誘引するための最適な性フェロモン量</p>	<p>I308 ○高木 素紀・久恒 和雅・鹿島 哲郎 (茨城農総セ園研) レンコンネモグリセンチュウ <i>Hirschmanniella diversa</i> に対する各種線虫剤の制線虫効果</p>	<p>J308 ○上樂 明也・桑崎 誠剛・宮本 和久・山本 公子 (生物研) ddRAD-seqによるコナガの連鎖地図作成および薬剤抵抗性原因遺伝子の探索</p>	<p>K308 ○土井 誠¹・中野 亮平¹・土田 祐大^{1,2}・石川 隆輔¹ (静岡農林技研¹・静岡賀茂農林²) 静岡県のイチゴ産地におけるナミハダニの薬剤感受性</p>	

10:00

10:15

10:30

10:45

3月28日(土) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	A309 ○古木 隆寛 ¹ ・馬本 典交 ¹ ・中城 満 ¹ ・関本 岳朗 ¹ ・片桐 千仞 ² ・Vladimir Kostal ³ ・原田 哲夫 ¹ (高知大・院・環境生理 ¹ ・東京電気大 ² ・Czech Academy of Sciences ³) 外洋棲ウミアメンボの1種、コガタウミアメンボ低温耐性の、東経138度個体群と東経160度個体群間比較	B309 ○宮川(岡本) 美里 ¹ ・Morandin Claire ² ・渡邊 豊 ¹ ・Tin Mandy M. Y. ¹ ・Mikheyev Alexander ¹ (OIST 生態・進化 ¹ ・Helsinki University ²) 侵略的外来種コカミアリの侵入成功の鍵を握るのは誰か?	C309 ○井手 竜也・神崎 菜摘・岡部 貴美子・大村 和香子(森林総研) 乾材害虫のフラスを利用したDNAバーコーディングに基づく種同定手法の開発	D309 ○嶋田 正和・長瀬 泰子・笹川 幸治(東大・総合文化・広域) 寄生蜂ゾウムシシコガネコバチと近縁種における表現型可塑性を考慮した推移行列の固有値感度分析	E309 ○薬師寺 賢・佐野 敏広(岡山農研) ネギアザミウマ放虫によるブドウ果粒果頂部の被害状況	F309 ○小堀 陽一 ¹ ・Warakorn Poono ² ・Hanboonsong Yupa ² (国際農研 ¹ ・Khon Kaen Univ. ²) サトウキビ白葉病の媒介虫に対する農薬の効果
11:15	A310 ○馬本 典交 ¹ ・古木 隆寛 ¹ ・中城 満 ¹ ・関本 岳朗 ¹ ・片桐 千仞 ² ・Vladimir Kostal ³ ・原田 哲夫 ¹ (高知大・院・環境生理 ¹ ・東京電気大 ² ・Czech Academy of Sciences ³) 赤道付近のセンチウミアメンボは異常に高い低温耐性を持つ!?	B310 松浦 健二(京大院・農・昆虫生態) シロアリのAQS(単為生殖による女王継承)が独立に何度も進化した理由	C310 ○有本 誠・安岡 拓郎・岩泉 連(横浜植防) DNAバーコーディングによるアジア型マイマイガを含む <i>Lymantria</i> 属の識別	D310 今野 浩太郎(生物研) 地上生態系はなぜ緑か?なぜ植食昆虫は少なく葉が食べ尽くされないのか?—植食・肉食動物の具体的現存量を予測する食物連鎖網の数理モデル	E310 岡留 和伸(京都農技センター) ネギアザミウマ幼虫は細霧灌水でもネギ葉から落下する	F310 ○飯田 博之・北村 登史雄・河野 勝行・武田 光能(野菜茶業研究所) ネギ圃場の周囲に植えたホーリーバジルがチョウ目害虫の天敵相に及ぼす影響
11:30		B311 ○沓掛 磨也子 ¹ ・重信 秀治 ² ・植松 圭吾 ¹ ・深津 武馬 ¹ (産業技術総合研究所 ¹ ・基礎生物学研究所 ²) 兵隊アブラムシで特異的発現する攻撃毒タンパク質の進化		D311 村瀬 香(名古屋市立大学大学院) 暴露した野生動物の遺伝的多型の経時的評価に関する生態測定情報学的研究	E311 ○川田 祐輔・大矢 武志(神奈川県農技セ) キャベツ栽培における育苗期灌注剤の処理時期の違いによるネギアザミウマへの防除効果	F311 ○嶽崎 研 ¹ ・山口 卓宏 ¹ ・田之頭 拓 ² ・小堀 陽一 ³ ・大澤 剛士 ⁴ ・内藤 尚之 ⁵ (鹿児島農総セ大島 ¹ ・鹿児島県大島支庁 ² ・国際農研 ³ ・農環研 ⁴ ・信越化学 ⁵) 奄美地域におけるサトウキビのイネヨトウに対する交信かく乱による防除

3月28日(土) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>G309 萬屋 宏 (農研機構・野茶研) 感受性と抵抗性のチャ品種・系統間におけるチャノミドリヒメヨコバイの吸汁行動の差異</p>	<p>H309 ○永山 敦士¹・真武 信一¹・嶽崎 研²・山口 卓宏²・光永 貴之³ (沖縄病害防セ¹・鹿児島開総セ大島²・中央農研³) イネヨトウの予察に必要な合成性フェロモントラップ数は?</p>	<p>I309 ○植松 繁^{1,2}・高原 浩之²・栗原 孝行²・藪 哲男¹・古賀 博則² (石川農研¹・石川県立大²) レンコンネモグリセンチュウのレンコン若芽への侵入過程の光顕及び電顕観察</p>	<p>J309 ○佐原 健¹・鈴木 一生¹・安河内 祐二²・伴野 豊³ (岩大農¹・生物研²・九大院農³) 染色体異系統を用いてカイコ突然変異の原因遺伝子にせまる</p>	<p>K309 ○中川 浩二・溝部 信二・殿河内 寿子 (山口農林総セ) 2014年のトビイロウンカとセジロウンカの各種薬剤に対する薬剤感受性</p>	/
/	<p>H310 ○清水 優子¹・又吉 祐輔²・友利 研一²・山口 綾子¹・上里 卓巳¹ (沖縄県防除セ¹・沖縄県宮古振興セ²) 沖縄県宮古島におけるイネヨトウとシンクイハマキのサトウキビへの被害と性フェロモントラップによる誘殺消長、農薬による防除効果</p>	<p>I310 ○前原 紀敏¹・神崎 菜摘² (森林総研東北¹・森林総研²) <i>Bursaphelenchus okinawaensis</i>のマツノマダラカミキリとキボシカミキリへの乗り移り</p>	<p>J310 ○上杉 龍士・日本 典秀・後藤 千枝 (農研機構・中央農研) 粘着トラップに付着したコナガはどれぐらいの期間PCRに利用可能か?</p>	<p>K310 ○松浦 明・日高 春美 (宮崎総農試) ワタアブラムシの葉片浸漬法を用いた簡易な殺虫剤感受性検定法</p>	/
/	<p>H311 ○竹内 博昭・高橋 明彦 (中央農研北陸研究セ) ダイズ栽培圃場におけるマメシンクイガ越冬幼虫の地表面移動時期</p>	/	<p>J311 ○高篠 賢二¹・豊島 真吾¹・眞岡 哲夫¹・上田 重文¹・大木 健広¹・三浦 一芸²・小西 和彦³ (農研機構・北農研¹・農研機構・近中四農研²・愛媛大³) 黄色水盤で採集したアブラムシ有翅虫の種と植物病原ウイルスの保毒を同時に判別する方法</p>	<p>K311 ○内山 徹・小澤 朗人 (静岡茶研センター) チャノココクモンハマキにおけるジアミド剤抵抗性の遺伝様式</p>	/

11:00

11:15

11:30